

しのみ



新しい家庭小説 入選作

嫁に贈る手紙

中島さと子

序 曲
これからの世

「嫁に贈る手紙」は、昭和二十九年、文芸春秋社から刊行された。作者は、中島さと子と中島菊夫の夫婦である。この作品は、戦後の家庭小説として、主婦の友会から懸賞小説として入選し、これが目にとまりシナリオ化されてTBSドラマとなったのが「咲子さんちよっと」です。

（205） 嫁に贈る手紙

ホームドラマは中野から

館長 比田井 克仁

本年7月23日から9月8日に特別展「中島さと子の『咲子さんちよっと』とテレビドラマの世界」を開催しました。原作中島さと子、夫君は漫画家中島菊夫です（夫妻で疎開児童のお世話をしました）。

ご自身の日常生活を淡々と語った「嫁に贈る手紙」が主婦の友の懸賞小説に入選し、これが目にとまりシナリオ化されてTBSドラマとなったのが「咲子さんちよっと」です。1961年から64年にわたり164回の連続ドラマとして放映され、当時としては異例の長寿番組で、松竹で映画化もされています。向田邦子・平岩弓枝が活躍する以前の初期のホームドラマです。

さて、このドラマに関わった中心的スタッフが意外にも中野区民だったのです。原作の中島さと子は上鷺宮、シナリオを起こした堀江史朗（のち博報堂副社長）も鷺宮、担当ディレクター蟻川茂男（以後数々のドラマの演出を行う）が沼袋四丁目の在住だったのです。この情報は、展示をご覧になられた蟻川さんのご遺族が私どもに声を掛けられて明らかになったことです。人と人のつながりが一つのことの裏側にあるものですが、それがみな中野区の人々であったことは主催者側としてもうれしかぎりです。

蟻川様には厚く御礼申し上げます。「原作と シナリオ監督 集う場所 みな中野とは 誉れ高しや」といった心境です。

文化財よもやま話

「待ってました！」の講談教室

本年の3月に中野区在住の講談師、神田山緑氏^{かんださんりよく}をお迎えして講談教室を開催しました。参加者は小学校一年生から七十代の方までと幅広く、楽しく熱気あふれる全三回の教室となりました。

第一回はまず小道具の張り扇^はの作り方を学びました。厚紙に芯となる竹を貼り、和紙を巻いて完成です。続いて講談の前半部分の練習。今回先生が用意した演目は「山内一豊^{やまのうち かずとよ}の妻 出世の馬揃え^{うまぞろ}」小学生向けには「花咲翁さん」のパロディーです。先生から講談に大切な三つのポイントである「間・強弱・緩急」を教わり、コツをつかみながら練習を重ねました。第二回は、まず初めに前週作った張り扇を叩く練習です。叩く音や回数、間合いが異なるだけで雰囲気^{ふんいき}がぐっと変わってくる大切な小道具です。続いて前回習った講談の前半部分の発表。先生が一人ひとりの話し方や張り扇の叩き方について丁寧にアドバイスをし、少しずつですが大声で語ることが緊張から楽しみに変わってきているようでした。最後に講談の後半部分を習い、会話のシーンでは上手と下手を意識して語るといったポイントを学びました。

最終回はいよいよ発表会。紋付袴の先生に着物姿の受講生もいて、一段と華やかな雰囲気です。「めぐり」に名前が出ると、客席からは「待ってました！」「日本一！」という威勢の良い掛け声。約5分間の話ですが、参加一人ひとりがそれぞれの個性を発揮し、小学生の二人も元気よく発表できました。

今回講談をわかりやすく、楽しく学ぶ事ができますます好きになりましたという声を多数頂きました。日本の伝統的な話芸である講談が、より身近に感じられる伝統文化体験講座になったのではないかと思います。今後も参加者の皆さんが新しい体験に心弾ませるような企画をしていきたいと思ひます。



大地に眠る歴史

中野区の遺跡 (12)

前号では7世紀までの遺跡の紹介をしてまいりましたが、その後8世紀以降、奈良・平安時代になると、現在のところ遺跡がまったく見つかっていません。これはたまたま発見されていないのかどうかかが問題となりますが、現在、区内では全域にわたって約250ヶ所の試掘調査と本発掘調査が行われてきましたが、この時代の遺物は破片1点だけです。このことからみてこの時代には人々がいなくなったと考えられるのです。

周辺の杉並区・練馬区でもおおよそ同じような状況ですが、妙正寺川をはさんだ新宿区落合地区の目白大学構内で8世紀から集落がはじまる落合遺跡が発見されています。

中野区では8世紀に遺跡がなくなり、新宿区落合遺跡では逆に8世紀から遺跡が出現するという現象が認められるわけですが、このような状況になったのは何故なのでしょう。

7世紀後半に日本中に国と郡が設定されました。その時、中野区は武蔵国（現在の埼玉県・東京都・横浜市・川崎市）の多摩郡の中に入ることになりました。多摩郡は中野区以西の東京都全域という広いもので、その真ん中の現府中市に武蔵国の国府がおかれました。現在の都庁にあたる役所の中心です。そして国府を中心に厳しい租税の取り立てが始まるのです。当時の日本の中心であった奈良の政府は耕地開発の促進を全国に命じました。政府の方針による新しい耕地開発が開始されて、そのための集落が計画的に配置されたと考えられています（計画集落）。

当時の租税は稲を主としていましたので耕地の拡大は水田開発を意味しています。その点で中野区地域は地理的な制約から水田を拡大することができない地域であったために、それまでの集落が別なところに強制移住させられたものと考えられるのです。現にこの頃、府中市・国分寺市・多摩市といった多摩川流域の集落が急激に増加する現象が認められており、おそらく中野区の人々もこちらの方へ移されていったものと推察できます。

この取組みは各郡ごとに行われていた模様で、新宿区落合遺跡は豊島郡に属していることから多摩郡に属する中野区の集落とは別な動きとして出現したものと理解されるのです。（つづく）

れきみん収蔵品紹介

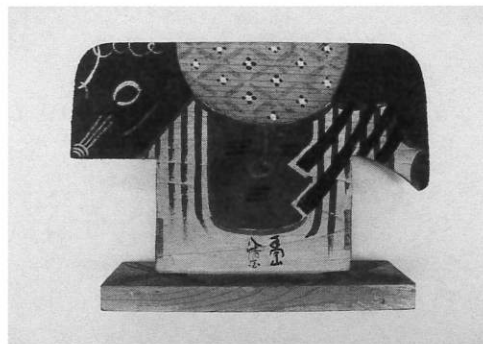
小絵馬コレクション

当館では、約50年前に北条時宗氏による絵馬の寄贈があり、戦前のものを中心にすでに約400点の小絵馬を収蔵しています。2年前に絵馬コレクターの方から、「北条コレクションとつなげて活用していただければ…」ということで小絵馬を中心に関連資料を含めて、多くの貴重な資料が寄贈されました。今はあまり目にする事の少なくなった手書きの小絵馬や、昭和初期に限定出版された貴重な小絵馬集などがあり、今回はその一部を紹介いたします。また、平成25年10月19日(土)～12月8日(日)の企画展「絵馬—絵馬からよみとる庶民の暮らし—」においても、北条コレクションも含めて、選りすぐりの絵馬を展示予定です。

絵馬の歴史

絵馬とは、神社やお寺に祈願や感謝の気持ちをこめて奉納する、絵の描かれた板のことです。お正月や合格祈願のときに目にする機会がある小絵馬と、扁額になって社殿などに掛けられている大絵馬があります。しかし、起源は神に生きた馬を献上する習俗にあるようです。『常陸国風土記』や『続日本紀』などにそのことがのっています。その後、古墳時代から江戸時代ごろまでは、本物の馬のかわりに、木や土で作った馬形を献上するかたちが続きました。この馬形を簡単なかたちにしたものが、板に馬を描いた板絵馬です。これは奈良時代ごろからあったとされています。江戸時代の文化・文政期（19世紀初頭）になると、図柄も馬だけではなく、神仏像、生業図、干支図など多彩になり、それが今日の小絵馬の図柄の原型です。

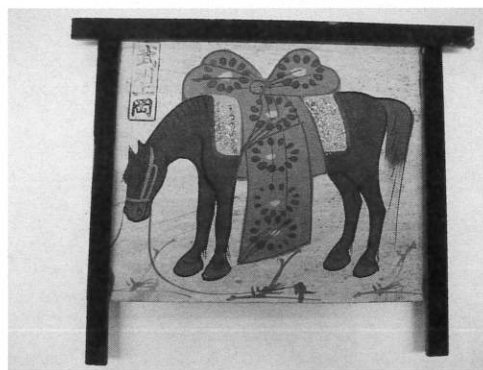
現代では、お正月や受験シーズンに神社で目にするものといった認識が強いのではないのでしょうか。



立絵馬…奈良県奈良市



地域年代不明



埼玉県上岡観音の絵馬

おがみ絵馬

神仏の前で拝んでいる姿を描いた絵馬で、拝んでいるのは男性のみ・女性のみ・男女・母子・家族と、いろいろなタイプがあります。また、願い事の内容については、描かれている背景の中から読み取れるものもあれば、奉納した本人にしかわからないものまで様々です。これは下半身の病の平癒など、公開をはばかるような場合が多いためとも考えられています。今でも変わらない「神様の前でおがむ姿」。それぞれの真剣な思いが伝わってくるような絵馬です。



母子おがみ…埼玉県飯能市



家族おがみ…埼玉県飯能市



女おがみ(ざくろ)…青森県

たくさんの種を持つ「ざくろ」は子宝の象徴です。この絵馬は、女性が子供を授かるようお願いしている図です。



男おがみ(軍服姿)…千葉県茂原市

幕のむこうの提灯には「大願成就」と描かれています。無事に帰還したことを感謝しているのでしょうか。絵馬の図柄から時代の背景を垣間見ることができます。

女おがみ(セーラー服姿)…埼玉県飯能市

立って拝む姿は、近代になってから増えました。

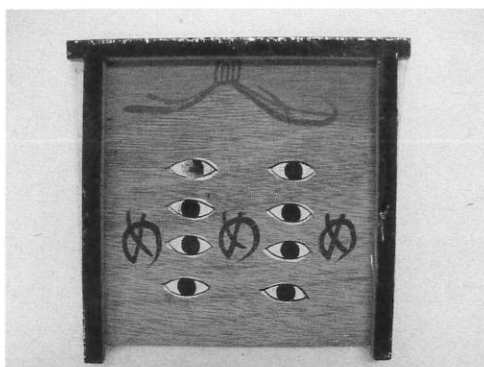


色々な願い

祈願の内容は人それぞれです。前ページのように拝む姿や馬の絵を描き奉納することもありましたが、願い事の具体的な絵を描いて納める場合も多くありました。目の病が治ることを祈願して「向目」や「八目」「十六目」の図、クサ（瘡）*がきれいに治るように「草刈鎌」の図、子供の入浴嫌いを治すために「小児入浴」の図などです。現代のように医療技術も発達していなかった時代には、病気などの平癒を神仏にお願いすることも多かったようです。

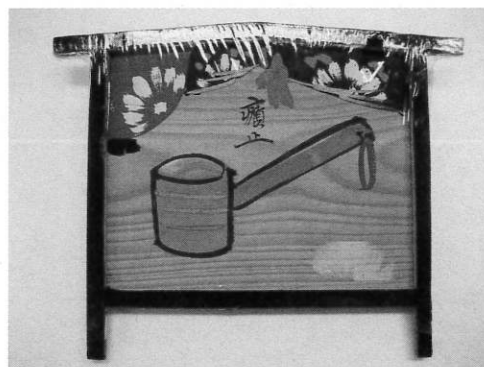
※傷のこと

健康に関わる願い



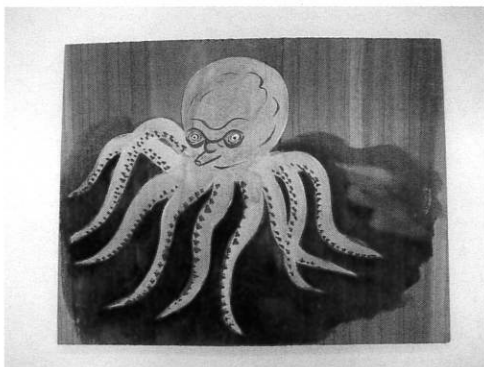
「八つ目」…群馬県邑楽郡

眼病平癒を祈願したもの。二つの目を描いた「向目」や、「十六目」などもあります。「八つ目」は、北関東に多く、「やんめ」と読ませて「病む目」にかけています。



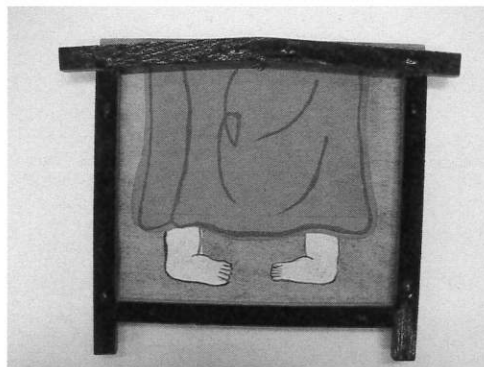
「杓子」…場所年代不明

杓子の絵の横に「癒止」と漢字が書かれています。「癒」（胃痛や胸部痛）がおさまるように願った絵馬です。



「蛸」…青森県

青森県弘前市の絵馬師によるもの。蛸の図柄は、腫れ物やできものの吸い出しを意味していることが多いそうです。



「腰巻」…栃木県足利市

赤い腰巻から女性の足が出ている図の絵馬は、婦人病や性病の平癒を願ったものです。足利市の水使神社は婦人病平癒で特に有名です。

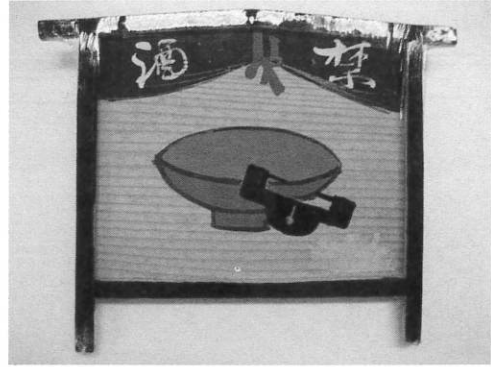
人間関係に関わる願い



「縁切り」…福岡県博多

この男女が夫婦なのかは不明ですが、二人の関係を終わらせたいと願っている絵馬です。地域によっては、男女関係のみでなく、病気や賭け事などとの断絶を目的とする場合もあります。

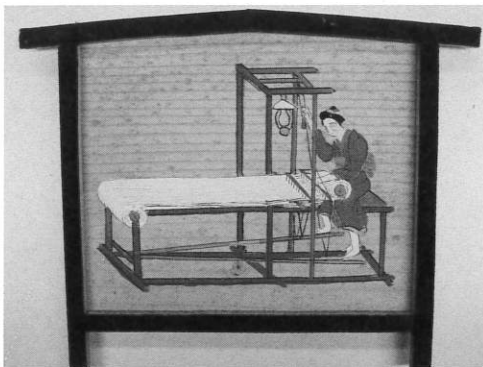
断ち物



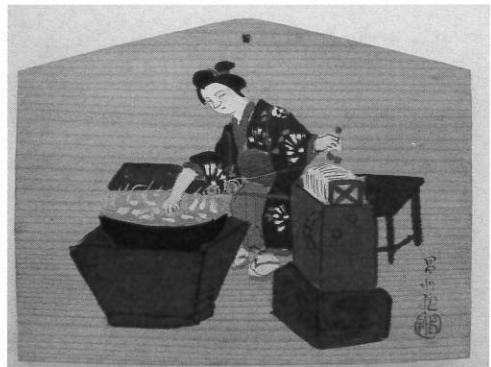
「杯に鍵」(禁酒)…埼玉県飯能市

他にも、「さいころに鍵」で禁賭け事、「心に鍵」で浮気防止など、鍵を使ったいくつかのバージョンがあります。家族が願掛けをすることも多かったといわれます。

産業絵馬 …神社などの大絵馬でもよくみかけます。



機織り…埼玉県



薬を煮ている様子…地域年代不明

この他、関連資料として郷土史家・田中緑紅(俊二)の「小絵馬図集」「絵馬かがみ」や、漫画家であり江戸風俗研究家の宮尾しげをによる「小絵馬集」(右)の寄贈もありました。

【参考文献】

- 『日本民俗大事典』1999 吉川弘文館
- 『絵馬に願いを』岩井宏實 2007 二玄社
- 『日本の絵馬』岩井宏實・神山登 1970 河原書店
- 『小絵馬図譜』石子順造 1972 芳賀書店



古文書つづり

思わぬところに 価値がある

日本の代表的な景観・富士山が世界遺産に登録されました。本欄担当者、てっきり自然と文化を合わせた複合遺産になると思っていましたが、登録されたのは信仰や芸術の対象としての「文化遺産」のみ。あの景観を評価されないのは違和感が残りますが、世界には同類の山岳が他にもあり、ゴミ問題も…と言われますと反論しづらいです。

この「世界遺産」以外でユネスコが主導する類似のものは、無形文化遺産と世界の記憶（通称＝世界記憶遺産）があります。世界遺産は自然や建築物を対象としますが、無形文化遺産は芸能や技術などを対象とし、世界の記憶は文化的価値の高い書物などが該当します。この世界の記憶の日本第一号、実は世界遺産への登録を目指したある炭鉱跡の関連資料として提出された画集が高く評価され、炭鉱跡は世界遺産になれなかった一方、画集は「世界の記憶」となった経緯があります。

まとまって寄贈されたばかりの資料の整理などしていますと「全く無価値とまではいわないけれど、資料的価値はないだろう」と思うものがしばしばあります。走り書きのメモ程度ならまだいい方で、なかには筆の試し書きにしか見えない紙片や単なる包装紙などもあり、出てくる度にかっかりさせられます。こうした時は即座に「受け入れ不可。廃棄」と切って捨てたくりますが、上述の炭鉱画の話などを聞くと他者や後世の人に何がどう評価されるのかを想像する難しさに気づかされ、即決できなくなります。

とはいえ収蔵スペースの制約がありますから何もかも全て保存しておくわけにもいきません。ある程度の取捨選択が避けられない以上、できるだけ幅広い視点で資料に接し、後の役に立てていきたいと思っています。



▲引き出しにガサッと寄贈資料
ここから取捨選択していく

中野往来

弥生町を巡る

中野区弥生町は、区内の南、神田川と方南通りの間の東西に長い地域で、新宿区・渋谷区・杉並区と接しています。旧地名で、雑色村と本郷村であり、区内でも、早くから人々が住んでいた地域です。雑色村の名の由来は、平安時代末期の創建といわれる大宮八幡宮（杉並区）の造営に関わった人々が住んでいたからとも、宮仕えの従者（雑色）の土地であったともいわれています。

旧雑色村の神田川沿いの低地は、長い間、田んぼの広がる農村地帯でした。市街地化されたのは、土地区画整理事業が終わった戦後のことで、方南通り、中野通りが整備され、昭和36～7年に地下鉄丸ノ内線が敷かれ、大きく様変わりしました。

現在の弥生町3～4丁目あたりは、川島と呼ばれる集落、農家の人々が多く、大山講・御嶽講・榛名講など、いくつかの講がありました。弥生町4-3には大山講の流れをくむ大山不動講の不動

尊がまつられています。

弥生町4-12には天文元年（1532）法印賢盛によって開かれた正蔵院があります。圓通山・正蔵院・海章寺と号し、本尊は聖観世音菩薩で、本山は長谷寺（奈良県）です。墓域には、三河西尾藩の家臣で、幕政にもかかわった川住行教とその子鯉三郎の墓があります。また、正蔵院の参道入り口（弥生町4-4）には、七体の地藏尊があります。これは、享保10年（1725）川島村の人々によって建てられたもので、川嶋地藏尊として知られています。



川嶋地藏尊

事業報告

各種事業経過

2012年10月～2013年9月

事業名	内 容	期 間
企 画 展	「中野区80年暮らしの記憶展」 「おひなさま展」 「端午の節句」	9/29～12/2 2/9～3/16 4/23～5/31
特 別 展	「墨跡の侘」 「井上円了と哲学堂展」 「むかしの暮らし展」 「江戸明治絵画の粹」 「中島さと子の『咲子さんちょっと』とテレビドラマの世界」 「たしなむスポーツ健康展」	10/13～11/4 11/20～12/27 1/22～2/24 3/9～3/31 7/23～9/8 9/21～10/27
夏 休 み 事 業	「学習相談」7/23～8/31「お面作り」7/23「自力で火おこし」7/24・8/7「勾玉作り」7/25・8/3・11・20「かんたん！うちわ作り」7/30「貝合わせ」8/1「押し絵マグネット作り」8/6「むかしのくらし体験」8/8・9「六角凧作り」8/10「こけしはがき作り」8/22「黄鮒の張り子作り」8/23	
講 座	古文書講座 講師：笠原 綾氏 (NHK学園専任講師) 古文書講座 講師：大友一雄氏 (国文学研究資料館教授) 講談教室 講師：神田山緑氏 (講談師)	10/6・13・20 10/27・11/3・10 3/2・9・16
公 開 事 業	秋季「山崎家茶室書院公開」 春季「山崎家茶室書院公開」	10/2～12/2 4/26～5/12
埋 蔵 文 化 財 対 応	若宮一丁目16番民有地立会 (9/13) 中野六丁目16番民有地立会 (9/25) 江古田二丁目13番民有地立会 (10/3) 野方三丁目14番北側民有地試掘 (10/18) 国庫補助 野方三丁目14番南側民有地試掘 (10/18) 国庫補助 江原町二丁目12番民有地立会 (10/29) 本町五丁目23番民有地試掘 (11/8) 国庫補助 白鷺二丁目29番民有地立会 (11/8) 江古田二丁目12番民有地立会 (11/13) 江古田三丁目13番氷川神社社務所立会 (11/15) 本町二丁目28番民有地立会 (11/26) 弥生町五丁目11番日本郵政用地試掘 (12/3～6) 沼袋二丁目16番民有地立会 (12/5) 江古田一丁目35番民有地立会 (12/13) 本町二丁目28番東側民有地立会 (12/18) 白鷺二丁目48番民有地試掘 (1/15) 国庫補助	弥生町六丁目9番民有地立会 (2/12) 松が丘一丁目34番哲学堂相对溪確認調査 (3/14) 国庫補助 江原町二丁目20番民有地立会 (3/15) 江原町二丁目23番民有地立会 (3/21) 江古田二丁目13番民有地立会 (3/22) 鷺宮四丁目19番民有地立会 (4/12) 松が丘一丁目10番民有地立会 (4/16) 本町五丁目33番民有地立会 (5/21～22) 本町二丁目28番民有地立会 (5/24) 本町二丁目27番民有地立会 (6/3) 沼袋一丁目26番民有地立会 (6/7) 江原町二丁目21番民有地立会 (6/14) 江古田四丁目18番民有地立会 (6/17) 沼袋二丁目16番民有地試掘 (6/17) 国庫補助 沼袋一丁目30番民有地立会 (6/21) 本町五丁目36番民有地立会 (6/24)
そ の 他	小学校3・4・6学年総合学習見学 18校	9月～8月

寄贈資料一覧

2012年6月～2012年10月

敬称略：受入順

資 料 名	点数	氏 名
そば屋定価表	1	梶田 澄
ひな人形一式ほか	一括	窪寺美奈子
ひな人形一式ほか	一括	岡田武夫・純子
こけし	1	福澤將浩・こずえ
石造物	1	後藤三和子
古写真	1	平井 康仁
土器・石器	一式	高橋 通
すごろくほか	4	百武真理子
テープレコーダーほか	2	鈴木 則幸

◎貴重な資料をありがとうございました。厚く御礼申し上げます。

入館状況

2012年9月～2013年8月 (延べ253日間) (人)

一 般	団 体	学校教育	合 計
30,447	661	1,147	32,255

発行年月日 2013年10月1日

編集・発行  山崎記念
中野区立歴史民俗資料館

〒165-0022 東京都中野区江古田4-3-4

☎ 03(3319)9221 FAX 03(3319)9119